

平成18年度研究調査報告

# 修学旅行における体験学習について

平成19年1月31日

(財) 全国修学旅行研究協会

# 平成18年度調査報告 修学旅行における体験学習について

平成19年1月31日  
全国修学旅行研究協会

## 調査のねらい

学校では新しい教育課程の下で、これまで以上に創意工夫に満ちた特色ある教育活動が展開されている。特色ある教育活動では、学習の場や指導者の幅を広げ、学校外での体験活動や地域の人材を活用した授業を展開し、地域社会の教育力の活用が図られている。

こうした状況の中、修学旅行で体験学習を取り入れている学校が年々増加し、約80%になっている。

当協会では、学校が体験学習をどう捉え、どのように修学旅行に取り入れているか。また、どのような教育的意義を持たせ、どのような教育効果を上げ、どのような課題があるのか。各学校の体験学習のねらいや実践に学び、今後の修学旅行における体験学習のあり方を考察したい。

## 調査対象

このアンケートは、3,147校の全国国公立中学校に依頼し、2660校、約84.5%の回収率であった。

### アンケート依頼校

	依頼校数	回収数	率%	備考
全国	3147	2660	84.5	
関修委	1380	1210	87.7	
東海修旅	371	315	84.9	
近畿修旅	1042	944	90.6	
その他	354	191	54	6校減

	依頼校数	回収数	率%	備考
東京都	10	4	40	
神奈川県	10	6	60	
新潟県	10	5	50	
富山県	10	7	70	
石川県	10	2	20	
福井県	10	8	80	
山梨県	10	5	50	
長野県	10	9	90	
静岡県	10	6	60	
京都市	10	6	60	
大阪市	10	3	30	
神戸市	10	7	70	
鳥取県	10	7	70	
島根県	10	5	50	
岡山県	9	5	55.6	廃校1
広島県	10	6	60	
山口県	9	4	44.4	休校中1
徳島県	10	7	70	
香川県	9	7	77.8	受取拒否1
愛媛県	10	2	20	
高知県	10	5	50	
福岡県	10	2	20	
佐賀県	10	6	60	
長崎県	10	3	30	
熊本県	8	4	50	閉校2
大分県	10	4	40	
宮崎県	10	8	80	
鹿児島県	10	6	60	
沖縄県	10	2	20	

関修委	茨城県	234	145	62	
	栃木県	168	164	97.6	
	群馬県	173	102	59	
	埼玉県	423	421	99.5	
	千葉県	382	378	99	

東海修	愛知県	0	0		413校独自調査
	岐阜県	194	153	78.9	
	三重県	177	162	91.5	

近畿修旅	滋賀県	97	96	99	
	京都府	98	94	95.9	
	大阪府	333	293	88	
	兵庫県	270	263	97.4	
	奈良県	107	80	74.8	
	和歌山県	137	118	86.1	

北海道	10	4	40	
青森県	10	7	70	
岩手県	10	8	80	
宮城県	10	6	60	
秋田県	10	6	60	
山形県	9	2	22.2	統合1
福島県	10	7	70	

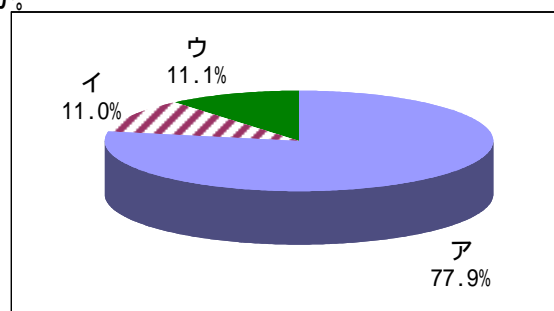
## 調査項目

- 問1 平成18年度の修学旅行に体験学習を取り入れましたか。(3択)
- 問2 そのとき、あなたの学校では、その教育的意義をどのように設定されていますか。(3つ以内選択)
- 問3 体験学習における事前指導(準備)をどのようにされましたか。(しますか)(3つ以内選択)
- 問4 体験学習実施にあたって、特に留意したことは、何ですか。(したいことは)(各3つ以内選択)  
(1) 学習支援 (2) 安全対策
- 問5 事後指導は、どのようにされましたか。(されますか)(3つ以内選択)
- 問6 今後の課題は何ですか。(3つ以内選択)
- 問7 全体を通して体験学習に関するご意見をお聞かせください。(自由記述)

## 調査結果

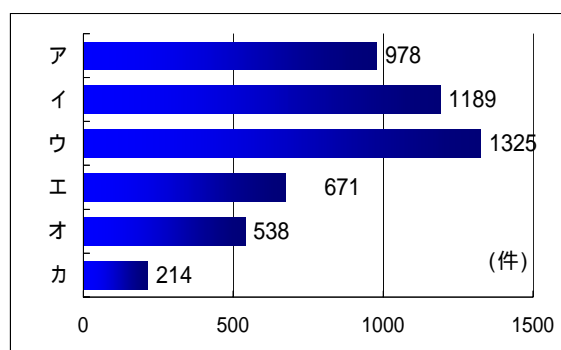
問1 平成18年度の修学旅行に体験学習を取入れましたか。

- ア 取入れた
- イ 今後取入れたい
- ウ 今後とも取入れない



問2 そのとき、あなたの学校では、その教育的意義をどのように設定されていますか。(3つ以内選択)

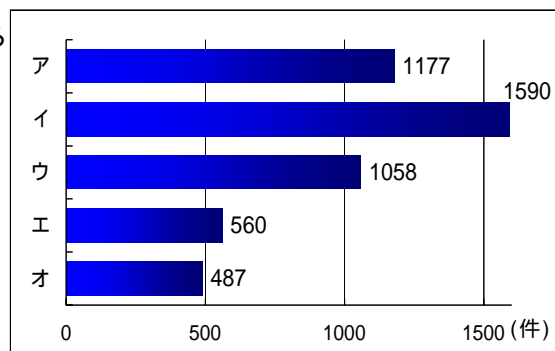
- ア 学習への関心・意欲をたかめる
- イ 学習の満足感や授受感を体得させる
- ウ 一人一人に主体的・追究的な活動をさせる
- エ 自ら課題を見出し解決する能力を養う
- オ 知識を統合し、生きて働く知恵を獲得させる
- カ 自らの考えを積極的に表現させる
- キ その他



- ・学校では学べない体験や社会交流をする
- ・日本の伝統文化に触れる ・その地方の文化に触れる
- ・人との触れ合いを通して豊かな感性を育てる
- ・海、山の生活の違いを体験させる ・自然に触れ、環境を考える
- ・普段の生活では体験できないこと、自分の目で見てくることなどを通して自分の考えを広げる
- ・伝統産業に関わる方との交流を通して、あらためて自分の生き方について考える機会とする ・よき思い出をつくる
- ・集団での行動、協力する力を育てる ・グループ行動の充実 ・知識の幅を広げる ・進路について考える
- ・体験を通して視野を広げる ・平和学習を進める ・他人とのコミュニケーション能力の育成

問3 体験学習における事前指導(準備)をどのようにされましたか(しますか)(3つ以内選択)

- ア ねらいを明確にし、ねらいに応じた体験の質の向上を図る
- イ 体験場所・内容の事前調査を行う
- ウ 活動の展開に必要な資料を十分用意する
- エ 修学旅行中の体験と日常の学校生活との継続性を図る
- オ 実りある体験活動にするため教師の指導・助言を充実させる
- カ その他

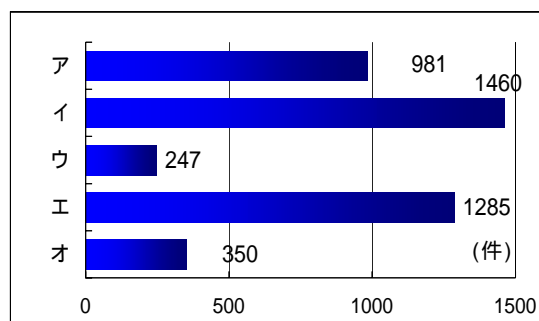


- ・調べ学習を充実させる
- ・集団行動、服装、マナーを充実する機会とした
- ・生徒の実行委員会が積極的に取り組んだ
- ・美術科の授業の一環として位置づけ指導した
- ・体験先指導者との連携、人間的な交流

問4 体験学習にあたって、特に留意したことは、なんですか(したいことは)(各3つ以内選択)

(1) 学習支援

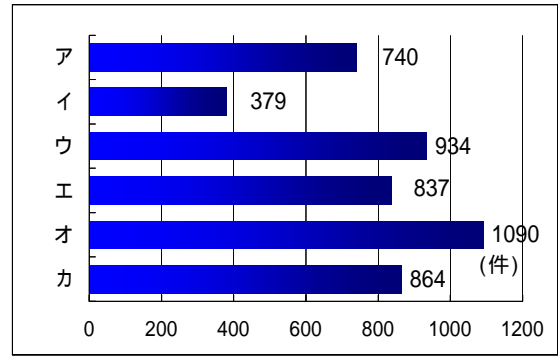
- ア 学習手段の確認
- イ 集団・個人相互の協力体制
- ウ 意欲を示さない生徒の指導
- エ 体験活動中の礼儀・作法
- オ 教師のきめ細かな巡回指導
- カ その他(主な物・抽出)



- ・事前の調査、練習、準備 ・活動時間や内容の統一
- ・目標、ねらい、テーマの明確化 ・生きる力を養う
- ・商業ベースではないものにした
- ・指導講師と現場教師の協力体制を強化する
- ・座禅を行うにあたって、信教の自由や思想・信条の自由に配慮

(2) 安全対策

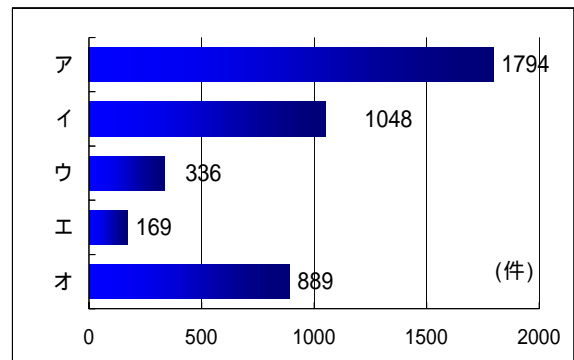
- ア 管理マニュアルの策定
- イ 電話連絡網の作成
- ウ 携帯電話の活用
- エ 体験中のケガ・病気
- オ 安心できる業者の選択
- カ 傷害保険への加入
- キ その他(主な物・抽出)
  - ・体験学習についての事前の情報収集
  - ・事前指導の徹底 ・安全意識の高揚
  - ・業者との入念な打合せ
  - ・ルールを守って活動できる生徒指導の徹底
  - ・危険箇所を下見によって確認
  - ・貸切ハイヤーの利用、運転手との連絡体制
  - ・他校とのトラブルを防ぐ細かな連絡体制



- ・自分の安全は自分で守る ・発信機着用
- ・ベテランガイドの必要性
- ・少人数グループ編成 ・教員の引率、配置、巡回

問5 事後指導は、どのようにされましたか(されますか)〔3つ以内選択〕

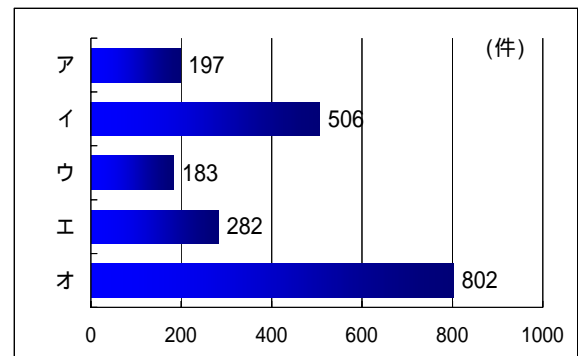
- ア 体験した内容をまとめる
- イ 発表する機会をつくる
- ウ 集録を作成する
- エ 個々の評価カード等を作成する
- オ 今後の生活や学習指導に生かす
- カ その他
  - ・総合的な学習との連携
  - ・作品の評価
  - ・体験学習先へのお礼状
  - ・体験先への提案、体験先からの評価



アンケートでは、  
 文書にまとめる(報告書、文集、個人新聞、班による壁新聞等)  
 発表会(学年集会、全校集会、保護者会、地域の方々への発表会等)  
 反省会(班、学級会、学年集会等)  
 礼状(体験学習先、お世話になったの方々へ)  
 『街への提言』を作成、「町長と語る会」への活用  
 発展的に学習し、夏休みの課題とした  
 の事後指導にまとめることができる。

問6 今後の課題は何ですか〔3つ以内選択〕

- ア ねらいが十分達成できなかった
- イ 事前指導が不足
- ウ 安全対策が不十分
- エ 時間・経費の割に内容が不十分
- オ 個々への評価が不十分
- カ その他
  - ・三年間の見通しの上での計画であること
  - ・ねらいに関すること
  - ・体験の種類・内容・多様化に関すること
  - ・体験先との連携に関すること
  - ・生徒の活動・意欲に関すること ・マナー学習の充実
  - ・活動内容について教師の把握に関すること ・時期の再考
  - ・その後の生活・学習との継続性の不足 ・事後指導のあり方



問7 全体を通して体験学習に関するご意見をお聞かせください(自由記述の抜粋・( )内の数は同意見数)

以下の(1)~(5)に分類し、更に各々を ~のキーワードで仕分けし、記述はまとめたり、大幅に抜粋

### (1) 意義・ねらいに関して

- 一貫性(23)
  - ねらい(80)
  - 意義 (20)
  - 地域性(3)
  - 人間性(13)
  - 意欲性(5)
  - 社会性(17)
  - 主体性(45)
  - 歴史文化(23)
  - ふれあい(14)
  - 個性伸長(6)
  - 否定意見(79)
- ・生徒の発達段階、興味関心、学校教育目標との関連、3年間の計画性。
  - ・学校の場にはない実社会の場での体験、日頃できない体験。ねらいの明確化。
  - ・学校の狙いと現地の考えにミスマッチ有り、遊び半分ならいらない。
  - ・体験だけが狙いであるなら学校周辺の方が充実、単なる思い出作りでは意味が無い。
  - ・無理な狙いはよい結果につながらない、大きすぎると大変である。
  - ・日ごろ体験学習不足の生徒に、見学だけでなく体験させることに意義。
  - ・体験学習の位置づけの明確化。観光中心から課題別体験が必要。
  - ・旅行先の地域性・文化性など、その地域ならではの体験学習。
  - ・〔生きる力〕の育成につながる体験学習。今まで身につけてきた力を試す場、人間形成。
  - ・体験学習中の表情に輝きが見られた。これからの学校生活に意欲化。
  - ・学習の関心意欲を高める。どう高めるかが課題。
  - ・学年、学級、班などの団結、絆を深め社会性を高める。
  - ・他人とのかかわりから社会生活に必要な礼儀・マナーを学ばせる。
  - ・学ぶことの関心意欲を高め、主体性を育てる。
  - ・今の体験は塗り絵をさせているのとおなじ。生徒が主体的に取り組むものにしていくべき。
  - ・日本の誇る歴史や文化遺産の中での伝統文化体験に意義がある。
  - ・日頃できない「人」とのふれあい、人との触れ合いを大切にしたい。
  - ・豊かな体験が個性を伸ばす、個々人の目標への対応が個を育てる。
  - ・日常の教育活動で様々な体験活動を実施しているので、修学旅行中では必要ない。
  - ・修学旅行の意義を「日本古来の文化」においているので、体験学習は取入れない。
  - ・可能な限り多く見せてあげたいところがあるので予定はない。
  - ・意義は認めるが時間・経費がかかりすぎる。時間、安全面から多くを望めない。
  - ・授業時間確保のため事前学習は最小限にすべき。生徒指導上の課題が大きすぎる。

### (2) 実施計画・事前準備に関して

- 実施計画(44)
  - 事前指導(90)
  - 時間(23)
  - 班別活動(6)
- ・旅行計画全体を見直し必要なら体験学習学習を取入れたい。
  - ・学校のねらいにあわせた体験学習ができると良い。事前に充分な情報収集が必要。
  - ・事前に訪問先と綿密な打ち合わせをすること大切であるが、困難がある。
  - ・体験を経験にまで高める指導のあり方を研究すること大切。
  - ・学習的要素とレクリエーション要素のバランス大切。
  - ・旅行者任せでは学校の狙いからはずれる。個人プログラムを作らせることも方法の一つ。
  - ・準備と費用の面で思うように取り組めない。事前準備に要する職員の負担は大きい。
  - ・学校職員の意思統一を十分図った学習体制を確立することが肝要。成否は事前学習にある。
  - ・『学ぶ必然性』を感じさせる指導。どうカリキュラム化するか課題。業者任せにせず学校で検討。
  - ・体験が目的ではない。当日の活動が大切。特に事前の準備を大切にしている。
  - ・事前・事後学習を充分させた。事前学習を十分していれば成果も大きい。
  - ・大きな集団では支持が通りにくいので、小集団にした。時間の確保が難しい。
  - ・主体的に取り組む指導者を育成すること大切。個々の希望を考え、実施することも大切。
  - ・課題を持って取組めるのはよいが、事前学習に多くの時間を取られた。効率的な時間の配分が必要。
  - ・体験学習に対する事前の対応が十分なので安心して取組める。

### (3) 体験内容に関して

- 情報収集(71)
  - 決め方(86)
- ・受け入れてくれる事業所を探すのに大変苦労した。情報が欲しい。質の高い体験の情報がほしい。
  - ・日程によって体験できる内容が限られてしまう。多様な資料提供を希望する。
  - ・学校規模に対応した体験学習の場所と内容をどう確保するか。ねらいに即した体験場所の確保。
  - ・体験活動リスト等の準備が不十分で、教員側の理解度が低い。そのため十分な指導・安全確保ができていない。下見は納得するまですること大切。
  - ・多くのメニューがあるが、しっくりしない。独創的なものがほしい。
  - ・生徒一人一人が「自ら学ぶ学習」の一環として、意欲的に取り組めるようにするために、内容、時間、必要経費等十分検討する必要がある。
  - ・一人一人の興味・関心に応じた体験学習ができるように、一人一人の選択能力を高めたり、目的を意識した活動になるようなきめ細かな指導が必要である。
  - ・興味関心に基づいた体験学習を設定することにより、修学旅行への意欲を高めたり、日本の伝統・文化についての理解を深めたりすることができる。
  - ・生徒個々の関心、意欲に合わせた内容にすることは難しい。
  - ・より価値の高い体験学習の創造を図る。総合的な学習に位置づけ、充実したものにしていきたい。
  - ・体験活動が日々の教育活動、総合的な学習の時間に関連付けられるような内容にしたい。
  - ・中学校の修学旅行は体験学習が必要。見聞と実体験。
  - ・視野を広げ、身につくものも多いので、精選して生徒の実態に合ったものを選択する。
  - ・学校が選んだ体験に生徒が関心を示さないことがある。

- 現地でしかできないもの(79)
- ・環境問題や福祉の問題へ取組むような体験学習は、修学旅行以外で取組むべきであり、現地でしかできないような体験学習（人、地域、文化、歴史など）に重点を置いて取組ませたい。
  - ・現地の“人”との交流を中心にした本物の体験学習を設定したい。
  - ・生徒同士、生徒・教師の交流ができる宿泊行事の中で、現地ならではの体験をさせたい。
  - ・現地でしかできないものを求め検討中。訪問先は違っても同じような企画が目立つ。
  - ・内容によっては時期の選択難しい。
  - ・日頃できないことであるので、今後も続ける。
- 文化・伝統(11)・単にそれぞれの職を体験させるのではなく、職人さんから生き方の指導を学んだ。
- 具体例(33)
- ・日本古来の伝統文化を体験できる良い機会でもある。
  - ・体験学習を取り入れることで、現地の歴史・文化遺産に多く触れられなくなっていたが、ワゴンタクシー使用で時間短縮し、体験学習と見学がバランスよくなった。
  - ・自然に直接触れることにより、生徒の物の見方が広がった。
  - ・地方のグリーンツーリズム、村おこし等と連携して取り組めるとよい。
  - ・現地の自治会が紹介してくれた体験学習は良かった。
  - ・防災学習、職場体験、海浜体験、民宿体験。
- 娯楽的(6)
- ・体験学習は観光化されたものが多く単なる遊びになってしまう傾向がある。それより、事前指導をしっかりさせ、伝統ある文化財産をしっかり見学させたほうが良いと思う。内容の娯楽化が心配。
  - ・文化や生活の違いに着目した体験学習を生徒が主体となって選択したが、そのときになると楽しむことに夢中だった。
- その他(107)
- ・個々の目標を設定し体験学習を実施する例が増えたが、内容を深めていくことが課題。
  - ・目的と内容について時間をかけて教師間の意思統一を図ること大切。
  - ・何がふさわしいかを見抜く目を教師が養うこと大切。
  - ・生き方を考え、夢を語る生徒を育成したい。生徒が関心を持てるような体験学習を研究したい。
  - ・学習意欲を高めると同時に意欲の継続、学んだ内容を広める活動をどのようにするか。
  - ・修学旅行の実施時期と体験学習内容の検討が必要である。
  - ・個々の班で希望に応じて体験を組み入れればよい。体験だけにこだわる必要はない。
  - ・生徒からの体験学習の希望がでない。体験学習の予約の大変さを感じる。
  - ・一つの体験でいくつもの狙いを達成しようとするのに無理がある。教師の準備が大変。
  - ・体験学習の内容と班編成との組合せに工夫が必要である。  
(大規模であるので、受け入れを採すのに大変。少人数であるためかえって実施が大変。)
  - ・当日、プログラム通りに実施できない班のために即応できる体制作りを考えたい。
  - ・時間が足りず、生徒が触れたり作業したりする体験が不足し、見学的体験学習が多い。
  - ・どの体験も魅力的であるが、「時間と費用」が課題。
  - ・体験学習の有用性は承知しているが、人的、時間的制約から十分な事前指導ができない。
  - ・体験学習を取り入れたいが、見学を多くさせたいという意見とどのように調整するか。
  - ・体験学習が唯一のものと考えない。内容をより吟味する必要がある。
  - ・内容の充実が今後益々大切。生徒・教師の負担にならないもの
  - ・失敗も学習となる。他校の実践を参考にしたい。
  - ・業者プログラムには不十分な物がある。現地の講師によって効果が違う。欲張りすぎて効果が薄い。
  - ・天候に左右されることが多い。(多数意見)

#### (4) 体験学習先(経費・施設・安全管理等)に関して

- 経費(129)
- ・満足度が高く金額に見合う目的の実践と、保護者への説明責任がある。
  - ・費用のわりに意義の認められない体験学習が多い。
  - ・体験させたいが、経費がかかりすぎる。料金が不明確。適正な価格を望む。
  - ・保護者に事前了承を得なければならないほど高額なものがある。
  - ・地域によっては全般的に高いところがある。
- 時間・日程(34)
- ・時間的な制限があり、十分な体験学習にならない。
  - ・生徒は移動に精力を集中し体験学習での成果が心配である。タクシーの活用も考えたい。
  - ・体験場所によっては混み合っていて、待ち時間が生じ、予定時間がずれてしまう。
  - ・2泊3日の日程で数時間の体験学習を捻出するのは難しい。3泊4日がちょうど良い。
  - ・3日間の日程の中で、1～2時間程度なら、検討してみる価値がある。
  - ・体験活動として、日程・時間的に見て適切な物がみあたらない。
  - ・野外での体験学習の場合、雨天時対策を考えておく。
  - ・時間と経費を見直して効果的な体験をしたい。
- 受入側(40)
- ・地元の方の親切さもあり、安心して生徒たちを送り出すことができた。
  - ・市バスや地下鉄等交通の便も良く、学習を進める上で効果的である。
  - ・業者が慣れてきて、ポイントを押さえた指導をしている。生徒の満足度、成就感が高い。
  - ・業者の尽力で、一人一人が満足できる体験ができた。今後もよりよい体験をさせたい。
  - ・旅行会社の対応が良くなり体験学習を行いやすくなってきた。今後も利用したい。
  - ・体験先との十分な連携と協力が必要である。民泊をして人との触れ合いをさせたい。
  - ・生徒の受け入れ状況が不統一で、決定が難しい。
  - ・大規模校であるので探るのが困難。学校が主体的に探すこと大切。
  - ・国際協力・支援に関する体験をしたいが少なくて苦慮している。
  - ・月曜日閉館が多く困っている。東京には受け入れが豊富。

- 連携(36)
  - ・よりよい体験を求めて旅行者・受け入れ・学校の連携必要。
  - ・体験先と十分な連絡が取れない。
  - ・受け入れ側が一時的に作成したプログラムの丸投げで行われている現状。
  - ・体験学習の内容によって、事前事後指導、留意点等違うので一律には決められない。
  - ・施設に生徒・学校の予約が集中していて、予約の確保が難しい。
  - ・体験学習は軌道に乗ってきており、それ程教員の負担にならなくなっている。あとは業者のサポート体制の問題である。
- 生徒数(7)
  - ・人数によって体験できないもの、学校規模で価格が高額になったりする。
  - ・大規模校であるので、受入を探すのが困難。
  - ・全体では体験場所が制限され、班別では内容は豊富だが経費がかかり妥当性が疑問だ。
- 商業ペース(16)
  - ・商業ペースに乗ってしまう体験が多く、中には教育的効果の得られないものがある。
  - ・体験学習が観光事業の一環となっている現状がある。
  - ・業者任せでは学校の意図が生かされない。全てを旅行会社任せで不安である。
  - ・学校の姿勢を理解してもらえるよう業者も勉強してほしい。
- 安全面(56)
  - ・体験活動中の生徒の安全確保と体験中の連絡の徹底について、今後も検討していきたい。
  - ・安全対策については、学校も業者も真剣に取り組むべき。安全対策がしっかりしている業者もある。
  - ・生徒の把握が難しい事故がおきたときの対応、補償問題など安全対策に課題が残る。
  - ・体験場所が増えて、教師の対応ができない。携帯電話を活用して、連絡がスムーズにとれた。
  - ・公衆電話が減少しているので、携帯電話を持たせたが、日頃の指導との整合性に悩んでいる。
  - ・現地案内板などの整備。
  - ・安全面から班行動をやめ、学級単位の行動に変えた。安全面から体験を取りやめた学校もある。
  - ・安全の心配をしながら実施している。
- その他(16)
  - ・体験が少なくなっているため、多くの体験をさせてやりたい。人と触れ合う体験を多くさせたい。
  - ・修学旅行でしかできないというものが少ない。
  - ・天候が一番の気がかり。

#### (5) 体験学習の成果に関して

- 主体的(22)
  - ・体験を通して主体的な人間を育てたい。個々の希望に配慮することが主体性につながる。
  - ・自分で選んだ体験学習に熱心に取り組み、ねらいは達成できた。
  - ・主体的に取り組ませたいが、レジャー化したものがある
- 関心意欲(37)
  - ・興味関心に応じ、生徒主体の体験学習を設定できるようにしたい。
  - ・生徒が自分で選んだので関心・意欲が高まった。
  - ・少人数で体験学習でき、興味や関心の差にも対応できて良かった。
- 満足成就(68)
  - ・体験することで、学習に対する充足度、満足感・成就感が高まった。
  - ・生徒一人一人 目標を持って取り組ませることができた。保護者の評価も高い。
  - ・体験コースにより、充実感、満足感が異なる。
  - ・希望する体験を優先させたので、成就感があった。
  - ・その道を究めた人からの技術の伝達は短時間であるうと貴重な体験である。
  - ・事前学習の中で興味・関心のあるものを選び、主体的に活動することで、成就感を持ち、心に残るものができた。また、班行動を通して生徒相互のより深い交流が図れた。
  - ・事前学習以上のことが学べた。修学旅行全体が充実した。
  - ・教育効果は大きい。更に充実させるための時間確保が難しい。
  - ・体験することで、いろいろな感じで学習できたのではないか。
  - ・体験活動は刺激があり、ものの見方や考え方を柔軟にしてくれる。
  - ・体験抜きの修学旅行は考えられない。人とのふれあいは、人間形成につながる。
  - ・1年生からの指導の積上げを基に、3年間の集大成として位置づけられ、人間形成を図る。また、今後(卒業後)の出発点でもある。・一回の体験でも長い人生から見れば意味のあることである。
  - ・引率の増員が必要であるが、効果は大きい。
  - ・事前学習したことを使って活動することは生きる知恵の獲得になる。
  - ・聞いたことは忘れ、見たことは憶え、体験したことは理解する
- 継続(16)
  - ・体験学習を20年以上同一地域で実施し、地元と学校との関係も深い。
  - ・目的がはっきりしているので、この体験を続けたい。
  - ・一つに偏らず、様々なことを経験させたい。
- 疑問(5)
  - ・生徒の気持ちの実態に合った体験学習になっているか疑問。
  - ・経験させるだけに終わっている。
  - ・時間をかけて来たことに見合う効果があるのかは疑問。
  - ・体験に時間をかけるのではなく、班別で史跡を見学をする方が有意義である。
- その土地  
ならでは(49)
  - ・普段できない、その土地ならではの体験を取り入れていきたい。
  - ・雪かきボランティアや老人家庭訪問を取り入れている。地域の方も楽しみにしている。
- 今後の活動への  
つながり(29)
  - ・単なる体験したと言うことでなく、事前・事後指導や他の学習活動に繋がる学習としたい。
  - ・個々の意識が体験を通して実生活の中で高まることを期待したい。(全てに関心を持つ)
  - ・体験することは生徒にインパクトを与える。特に質の高い伝統文化に触れることは、見たり聞いたりする以上のものを与える。事前に入念に調べ、自らの足で訪ね体験することは、その後の生活にも生きて働く力となる。
  - ・体験学習学習をするために、日常の意欲的な生活を更に高める必要がある。
  - ・生徒同士の理解にもつながり豊かな情操教育ができた。
- その他(21)
  - ・少人数のため充実した体験ができた。・大人とのふれあいがよい効果をもたらす。
  - ・時間の割に効果が少ない。・時間と費用に見合う効果があるか、検証が必要。
  - ・単なる思い出作りにならないようにする。

## 体験学習に期待するものと課題

調査結果に基づき、全修協として下記の通りまとめてみました。

### 1. 体験学習に期待するもの

#### (1) 未知のものとの出会いと感動

- ・ 日常の学校生活や家庭生活で出会うことのない体験は、生徒に新しい発見と感動を与える。
- ・ 教科学習や他の学習活動で学んだ内容を、初めて自分の目で見、肌に触れてみることで、感動とともに、学習の定着が図られる。
- ・ 体験活動は五感への刺激があり、ものの見方や考え方を柔軟にしてくれる。

#### (2) 生徒の主体性と成就感

- ・ 修学旅行の目的に沿った体験学習は、ねらいが明確にされ生徒の主体性を生む。
- ・ 生徒自ら選んだ体験学習なので熱心に取り組み、満足感、成就感を与える。

#### (3) 人とのかかわり

- ・ その道を究めた人からの技術の伝達は短時間であろうと貴重な人生体験となる。
- ・ 知らない人とのかかわり合いは、緊張感をともない、指導も熱心に粘り強く受けられる。また、礼儀・マナーの学習ともなり、新鮮な出会いに心地よい疲れを感じることができる。
- ・ 土地の人々との交流から、未知の文化を吸収したり、ボランティア活動などで感謝されたりで感動的である。
- ・ 事前の学習、当日の教え合い、事後のまとめ・反省と、グループの人間関係の深まりをもたらす。

#### (4) 3年間の思い出

- ・ 生徒にとって大変貴重で感動的な体験は、一生の思い出として残るものである。

#### (5) 活動の継続性

- ・ 体験することは生徒にインパクトを与える。特に質の高い伝統文化に触れることは、見たり聞いたりする以上のものを与える。事前に入念に調べ、自らの足で訪ね、体験することは、その後の生活にも生きて働く力となる。
- ・ 単なる体験に終わらせることなく、事前・事後あるいは他の学習活動につなげることにより、今後の学習に役立つものである。
- ・ 体験学習として得られたものは、日常の生活を更に意欲的に高めるものである。

### 2. 課題として提示されたこと

#### (1) ねらいに関すること

- ・ 班別に生徒が企画立案する体験学習ではなかった。
- ・ 生徒ひとりひとりに取組ませるねらいや課題設定が不明確であった。
- ・ 体験学習は日常学校生活で取入れている。また、修学旅行での体験活動が遊興的であったり、観光化されているので、修学旅中の体験学習は必要ない。事前学習をしっかりとやって、伝統ある文化財産をしっかりと見せる方が良い。

#### (2) 時間と経費に関すること

- ・ 費用のわりに意義の認められない体験学習が多い。
- ・ 時間的な制限があり、十分な体験学習にならない。また、日程・時間的に見て適切な物が見当たらない。
- ・ 体験学習を取り入れたいが、見学を多くさせたいという意見とどのように調整を図るか。

#### (3) 体験先の選定に関すること

- ・ 受け入れてくれる事業所を探すのに大変苦労、情報や他校の事例を知り活用したい。
- ・ 教員側の理解度が低いため、十分な指導・安全確保が不十分である。
- ・ 場所・内容・費用等の検討が必要で、体験先との十分な連携と協力が必要である。
- ・ 商業ペースに乗ってしまう体験が多く、中には教育的効果の得られないものがある。
- ・ 体験活動中の生徒の安全確保と体験中の連絡の徹底について今後も検討していく。

#### (4) 事前準備に関すること

- ・ 事前指導 体験学習 事後指導と一貫したねらいのもとに、職員の意思統一を十分図った学習体制を確立することが肝要である。
- ・ 熱心に体験学習に取り組もうとするほど、事前指導の時間が不足してしまう。



### (5) 事後指導に関すること

- ・評価基準を明確にし、個々の生徒のまとめ、評価を行いたい。
- ・今後の学習にどうつなげるか、日常の学校生活への継続、深化を図りたい。
- ・総合的な学習の時間との関連をより深いものにしたい。

## 3. 今後の体験学習の方向性

### (1) 教育目標と目的意識

- ・学校教育目標や教育課程に添って修学旅行を企画し、その企画に基づいて体験学習を含めた旅行計画がなされなければならない。目的意識をしっかり持たせ、そこを出発点にし、意識の高い体験学習に取り組ませる。

### (2) 情報収集・選定と事前指導

- ・どの学校でも体験学習の情報収集には苦労しているようである。学校としてのねらいや条件を明確にし、各学級の実践報告会の開催はもとより資料・パソコン情報や旅行業者を通しての情報収集が欠かせない。
- ・中学校生活3年間を通じた職員の宿泊的行事に対する意思統一を十分図った学習体制を確立することが重要であると思う。
- ・体験先の選定にあたっては、一人一人の興味・関心に応じた体験学習ができるように、一人一人の選択能力を高めたり、目的を意識した活動になるようなきめ細かな指導が必要である。
- ・体験学習は、多くの人にお世話になる。聞く、学ぶ、話す、礼儀等日々の指導の延長線上にある。また、班別行動等、仲間との協力性、マナー、トラブル防止や交通安全のための事前指導は重要である。

### (3) 当日の指導と安全管理

- ・計画段階から生徒に参画させ、主体性、協力性を育てる。「礼儀・作法」や「集団の協力体制」など、生徒たちに不足している「人間関係の稀薄さ」については重要な指導の場とする。
- ・安全対策は最も留意すべきところである。体験学習においては、安心できる業者の選定と、班別行動であることから携帯電話の活用が重視されている。
- ・ルールを守る事前の指導の徹底や、危険個所の把握などが必要である。

### (4) 事後指導と評価

- ・修学旅行で学んだことを事後指導において、その成果を確かめ、評価され、これからの学校生活で、生かされなければならない。
- ・全体評価、個人評価の方法、総合的な学習の時間との連携に対する評価方法の研究も急務である。
- ・修学旅行は、1年生からの指導の積上げを基に、3年間の集大成であると思う。しっかりとした事後指導や評価は、彼らの人間形成に役立ち、将来へと繋がるものである。

## まとめ

学校を離れて学習する修学旅行は見聞中心であっても十分な準備や取組みによって、未知の土地での驚きや未知の人との出会いによって感動するなど、日常の学校生活に無い教育的価値があり貴重な体験になっている。

それでも更に活動的な体験学習を取入れるということは、見聞中心だけよりもインパクトがあり、生徒の関心を高め、主体性を増し、更に意欲的に「人間形成」や「生きる力」を育てる効果が期待できるからと考えられる。修学旅行そのものが物見遊山であったり、小手先だけの体験学習であっては、その教育的意義は半減してしまう。1年生からの計画的な指導の積上げを基に、3年間の集大成が修学旅行には必要である。しっかりとした企画から事前指導、当日の活動、事後指導や評価をすることが必要なことである。

こうして創り上げた修学旅行で生徒が主体的に体験学習に取り組むことは、彼らの人間形成や未来へと繋がる貴重な学習になるだろう。